

まめな川西
いつわの里

川西いなかつーリズムモニターツアー
『秋のいなかに泊まろう』
記録集

●実施日 / 平成24年11月23^祝日 ▶ 24^土日

はじめに

私たちが暮らす広島県三次市の川西地区は、典型的な中山間農村地帯です。

私たちは2006年に、この川西で安心・安全に楽しく生活していくために、「まめな川西 いつわの里づくりビジョン」を地域をあげて作りました。

その基本目標である「いつわで創る田舎暮らしが楽しい里」を目指して、様々な実践プログラムを、川西里づくり委員会が中心になって調査研究してきました。

2009年10月には、都市農村交流モニタリング事業として、『村まつりと民泊ツアー』を実施しました。都会から若い女性を呼び込んだこのツアーは、川西地域のファンをつくり、この地域にいなかつーリズムの気運が高まりました。

そして今年度、三次市の「活力ある地域づくり総合支援事業」として、農家民泊の育成と農家民泊プログラムの定着化を目指して、『秋のいなかに泊まろう』川西いなかつーリズムモニターツアー」を企画しました。前回の受入農家は、村まつりの関係で有原地域だけでしたが、今回は川西全域から、民泊初体験者3軒を含む7軒の方に引き受けていただきました。

ワーキングスタッフにより、参加募集のチラシや参加のしおり、農家民泊の手引きなどを作成していくなかで「川西版農家民泊プログラム」が少しずつ形づくられてきました。反省会などでは「始めは緊張したが、やってみると人との出会いが楽しかった」「年に1・2回はあってよい」「上水道がきたら、農家民宿の許可申請をしたい」などの感想が寄せられました。

今回のモニターツアーを経験し、前回とは違った年齢層の川西ファンが増えたことと農家民泊をやってみようという人が増えたことが何よりも嬉しいことです。

農家民泊を引き受けていただいたご家族の皆様、モニターツアーに参加された皆様、このモニターツアーに関わっていただいた関係者の皆様には、心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

地域ぐるみで力を合わせて、川西のいなかつーリズムをますます充実させていくために、今後とも地域の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いします。

川西いなかつーリズム実行委員会一同



三次市活力ある地域づくり総合支援事業で実施しました

<計画書の概要>

事業の名まえ・・・ まめな川西いつわの里
地域カステップアップ事業の内、
「農家民泊の育成と農家民泊プログラムの定着化事業（以後、農家民泊育成事業）」

実施場所・・・・・・・・ 川西地区

主体となる団体・・・ 川西自治連合会

地域の現状・・・・・・・・ 美波羅川に沿い北方に一端を開く盆地部と、旧三次市の最高峰岡田山山地部からなる典型的な県北地区の中山間農村地帯である。農業が主要産業であるが一戸当たりの耕作面積は少なく、住民のほとんどは三次市街地等への通勤兼業農家であるが近年、観光農園、農事組合法人といった新たな農業形態も進んできている。地区人口は、1955年の約3,500人を境に、現在は約1,204人へと大幅に減少し、高齢化率約43.8%と少子高齢化の過疎地となっているが、近年のまめな川西里づくりビジョンによる定住策の取り組みにより、I・Uターン者もあり、高齢化率（前年 44.3%）や人口減少幅もやや下げ止まり傾向が出てきている。

地域の課題・・・・・・・・ 今後、三次市街地への通勤者居住地としての社会的位置関係は、一層強くなると想定される。そのため、自然環境など田舎としての宝を生かしつつ、地域が美しく豊かで文化的な生活環境のもと、安全・安心に快適に暮らせるよう居住環境の整備を第一義としながら生産活動を活発化させ、田舎暮らしを楽しみ田舎暮らしがステータスとなるよう、

① 少子高齢化の過疎地という現状を踏まえ、日常生活支援、安否の確認などによる老人世帯が安全・安心に暮らせる地域体制づくりと、魅力ある保育所、小学校づくりを中心とした地域ぐるみの子育てサポート体制づくり

② 田舎暮らしに自信と魅力を持つきっかけともなる都市と農村交流を進める各産業のネットワーク形成と主要産業である農業を核とした地域産業起こし

③ 地区のシンボルである山(岡田山)、川(美波羅川)、道(国道375号)、歴史(旗返城)などの活用と美化・自然環境保護による快適な生活環境づくり

④ 水、交通、店、医療などの生活の基礎的条件の整備と災害に強い地域づくりなど里づくりビジョンを基本とする総合的な対策、特に定住策が課題となっている。

また、これらを推進するための拠点となる自治連合会、町内会など自治組織を始め、NPO、農事組合法人、文化団体などの具体的活動団体づくりと活動推進、活動拠点施設としてのコミュニティセンターなどの機能の強化充実が求められている。

農家民泊を育成し、民泊プログラムの
定着化をめざそう！！

農家民泊育成事業の 川西地区は、地区を構成する三若町、海渡町、石原町、上田町、有原町の5つの町を基
目的・・・・・・・・・・ 礎単位として、古くから町内会活動が活発に展開されてきた。今後もこの歴史と作風を
活用し、それぞれの個性を生かしながら、連帯の輪（和）を一層構築していく必要がある。
また、川西の最大の資源は、その田舎性にある。田舎暮らしそのものがステータスとなり、
住民一人ひとりが美しく豊かで文化的な生活環境のもと、安全・安心に快適に楽しく、
存在感を持って暮らせることが求められる。そのためのエピソード・興味のある話と夢
が求められる。

このことから、平成18(2006)年4月策定の「まめな川西いつわの里づくりビジョン」
での里づくりの基本目標、「いつわで創る田舎暮らしが楽しい里」をめざして、「農家民
泊育成事業」では、

「実りが輝く 田舎暮らし豊穡の里」

○ さまざまな人々の定住につながる魅力ある稼ぎの場づくり

○ ふるさとの自然を活用した都市との交流の場づくり

の基本行動を展開し、地域活動を活性化し、地域力のステップアップを図る。

内容・・・・・・・・・・ 本地域のふるさとの自然・資源を活用した地域産業興しと都市との交流の場づくりとして
「ほしはら山のがっこう」を中心としたグリーンツーリズムを展開することとしている。
特に、旧上田小学校廃校に伴い、三次市が実施した「都市農村交流に対する意向調査」（平
成16年、都市住民、地域住民対象）に基づき、「元気な地域づくり交付金やすらぎ空間
整備事業」で学校施設整備がされ、上田「ほしはら山のがっこう」として、都市部の子
どもの民泊などによる交流がなされている。

しかしながら、民泊やホームステイなど、受け入れ農家を確保し、地域内の人的・物的
資源を総合的に活用し、地区全体へ関わりを拡大していくことが大きな課題となってい
る。

この課題を克服し、実際に交流事業を上田町以外でも経験し、地区全体への取り組みに
拡大させるために、2009年10月10日から11日に「村まつりと民泊」都市農村
交流モニタリング事業を実施した結果、若い女性を中心とした地域ファンの確保、取り
組み農家の一定の確保がされたが、交流プログラム、農家民泊とも定着には至っていない。

このため、まめな川西いつわの里づくり委員会が実施したこの体験を基本に、本委員会
事業として具体的実施にあたるワーキングスタッフを公募し、このスタッフを中心に農
家民泊の育成と農家民泊プログラムの定着化を図る事業を展開する

○ワーキングスタッフの募集と結成（7月）

広報川西等で広く本事業の実施に当たるワーキングスタッフを公募し、実戦部隊を結成
する。

○農家民泊取り組み農家の育成

取り組み農家の募集と開業手続き、体験交流プログラム作りのための研修会の実施（8
～9月）

○農家民泊プログラムの定着化

具体的農家民泊プログラムを作成し試行する。この参加者の参加募集を行う。

なお、参加者については、「村まつりと民泊」都市農村交流モニタリング事業での参加者
などを活用する。

スケジュール

11月23日（祝）

12時半～ 現地集合・受付（ほしはら山のがっこう）

13時～ 開会式
委員長あいさつ
スタッフ紹介
オリエンテーション

14時～ 体験1
「里山のお散歩～クラフトの材料をさがそう」

15時～ おやつ・お風呂タイム
プロフィールカードを書こう
おふろ ①女性1
②女性2
③男性（16時～）

16時ごろ 各農家さん集合

対面式
記念写真

17時前 各農家へ出発！

民泊「農村の暮らし体験」

11月24日(土)

10時～ 帰校 ; 11時までには帰ってきてください

10時～ 体験2
「しめかざり・クリスマスリースをつくろう」

12時～ 移動

12時半 バーベキュー (平田観光農園)

13時ごろ 民泊報告会 (3分ずつ発表)

13時40分 閉会式

1. 民泊先農家よりひとこと
2. 委員長あいさつ

解 散



アルバム & 感想

参)参加者 泊)民泊先 の感想

集合場所のおもてなしの準備



←手づくりのウェルカムボード
↓秋の草花でおむかえ



スタッフもドキドキしながら準備をすすめましたが、このころ、各民泊先の方々はもっとドキドキしながら準備をされていたことと思います!



受付・開会式



参)こたつや障子などで寒さ対策をしていただき、暖かく過ごせた。

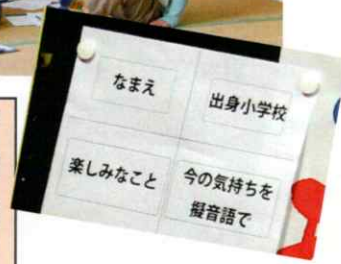
自己紹介



家族・グループごとに円座になって座り、自己紹介をしました。A4用紙を4つに折り、書き込んだ情報を発表する形で行いました。



参) お互いのことが分かり和やかでよかった。『今の気持ち』は皆同じようになってしまうので、別のお題のほうが書きやすかったです。



「里山のお散歩～クラフトの材料をさがそう」



川西地域ののどかな風景にふれていただき、歩きながら、おしゃべりをして打ち解けました。また翌日のクラフトの材料あつめをして、明日のプログラムを楽しみにするプログラムにしました。

参) 子どもにとってもはじめての人とふれあって、おしゃべりをして、行動をして良い体験になったと思う。
参) 街ではリース用のヒバの木など販売をしているので、採取するときはちょっとしたお宝探しの気分だった。
参) 鳥獣害の話が新鮮だった。

お茶タイム・おふろタイム・プロフィールカードを書く

散策から帰ってきたら、軽いおやつとお茶で休憩。
合わせて、民泊先に持っていくプロフィールカードを
書いたりしました。

同時に、おふろタイム。
前回のモデルツアーのときに、
「お風呂に入る時間があって、体験が十分にできなかつたり
家族のお風呂の時間を取るのがむずかしかつたりする」
という反省が出ていたので、
今回は、ほしはら山のがっこうでお風呂に入ることになりました。
この施設には7～8人が入れる浴槽が1つしかないので
男女交代で3組に分かれて、順に入浴しました。

参) お風呂が早かったので湯ざめが心配だった。
参) モニターツアーだからなのか分かりませんが、
お風呂タイムは無くてよいと思った。
参) お風呂を山のがっこうで入れて良かった。ホ
ストファミリーの負担が減るから。
参) シャンプーがガサガサでした。
参) プロフィールカードは(民泊先で)使わずじま
いでした。

対面式



お泊まりするお家の方との対面式です。泊まり先の方が
お迎えに来られて、簡単な自己紹介をしました。



出発。ドキドキ。行ってらっしゃい～～～!



参) どんな方のお宅に泊まれるのか
少し不安とワクワクだった。会う瞬
間までわからなかったけど、会った
瞬間すごく安心して、よかったと思
いました。

参) あっという間だった。

参) あわただしかった。

参) 気軽に楽しくできた。

参) 対面式そのものは問題ないの
ですが、民泊先の方と、もう少し早
い時間に対面できたらなと思った。

泊) もう少し時間があれば良かった。
泊) この時期は5時には暗くなるの
で、4時には家に来てもらうほうが
良い。

農村で民泊！

棧敷さん宅(石原町)



森田さん宅(海渡町)



貞野さん宅(上田町)



松田さん宅(有原町)



棚多さん宅(有原町)



上野さん宅(三若町)



金末さん宅(上田町)



参) 十分すぎるおもてなしで恐縮過ぎるくらいだった。その土地ならではの食材や、なかなか食べられないものが美味しかった。

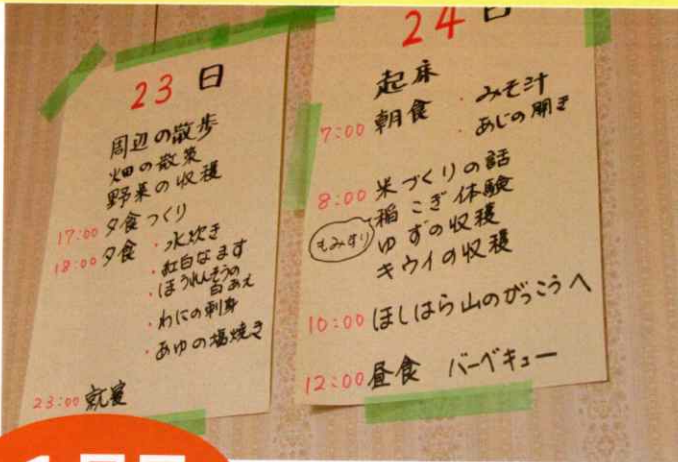
参) 子どもの頃から食べていたワニの刺身を頂き、久しぶりでそれも美味しく感謝。お姉さま方の料理・漬物とっても美味しかった。栗ごはんも久しぶりで、田舎ならではの料理は最高。

参) 田舎育ちの私にとって、母の手料理はもう食べられないので、懐かしく、うれしく、感謝一杯。

参) ごちそうだったので驚いた。赤字になるのでは？

参) 気をつかわないいつも通りな食事対応でとてもくつろげた。

上野さんちの一泊二日



上野さんちは、金高さんご夫婦が民泊体験しました。
 はじめての民泊受け入れて、上野ファミリーもドキドキ!!



1日目



夕食食材の収穫!

上野ファミリーの娘さんたちも帰ってきて、いっしょに過ごしました。畑で本日の夕食のお野菜を収穫しました。



まず、家の周辺を散策しながら、収穫体験をしました。
 柿、キウイ、ザクロ。
 秋はおいしいものがいっぱいです。



みんなで夕食♪

参)あたたかいおじいちゃん、優しく力強いおばあちゃん、ぶつとんでいながら包容力のあるお父さん、チャーミングなお母さん、個性豊かな娘さん。みなさんと出会えてハッピーでした。

2日目

昔の農家体験！



参) 米の脱穀体験は最高でした。
参) 昔の農具は子どもの頃、親が使っていた記憶はありますが、使ったことは無いので、昔の人の知恵を無くしてはいけないな、と感じました。

上野さんちでは、昔の農家の体験ができます。

おじいちゃんが、稲の脱穀、もみすり、精米の昔の道具の使い方を教えてくださいました。

森田さんちでは・・・



森田さんちでは、仲良しのご近所さんが集まってきて、みんなでアイガモをさばいて料理し、宴会をしました。

参) 川西の人が夕食に同席していて、地域住民同士の仲の良さを感じられた。

松田さんちの思い出



松田さんちには、前回のモニターツアーに引き続いて0歳の赤ちゃんと、3才の子連れファミリーがお泊まり。男の子が神楽を舞ってくれるのを、みんなで見て楽しみました。

金末さんちの思い出



金末さんちには、90代のおばあちゃんが、娘さんといっしょにお泊まりしました。農家民泊の最高齢参加者です!!金末さんちにも、90代のおばあちゃんがいらっしゃいます。

貞野さんちでは・・・



貞野のお父さんとご主人は、裏山へ犬の散歩にでかけました。おしゃべりしながら、山道を歩きました。



女性同士で、お料理。手づくりこんにゃくのお刺身につけるユズ味噌を、お母さんに習いながら作っているところです。



お散歩から帰ってきたご主人。火鉢にあたりながら、料理をしている女性ふたりと、楽しくおしゃべり。



ご主人が改造した小屋にご近所のお母さんたちが集まって、手づくりロケットストーブにあたりながら夕食。

食事対応について

民泊受け入れ者の感想

- 泊) ワニとすき焼きにしたので、子どもと一緒に作ることができた。
- 泊) メニューは普段食べているものと、郷土料理ということで、「ワニの刺身」にしたので負担に思わなかった。
- 泊) 民泊された方と子どもの歳が近かったということで、話が弾んだ。
- 泊) 助っ人来てもらい、いろいろと話が弾み、時間も忘れるくらい食事ができてよかった。

宿泊対応について

民泊受け入れ者の感想

- 泊) 就寝時間は決められていたが、話が弾んで25時になってしまった。こちらから話を切って寝ていただくことは可能なのですか？
- 泊) 親戚のように思い、気さくに対応した。
- 泊) コタツで寝てもらいました。(コタツと布団の組み合わせ)
- 泊) 今回のように入浴は済ませてもらいたい。

体験対応について

民泊受け入れ者の感想

- 泊) 雨が降ったので、用意していた全ての体験はできなかった。
- 泊) 大根を抜いてもらったり、ユズを取ってもらったりした。
- 泊) あれもこれも体験してもらおうと気負いすぎた面があった。
- 泊) 農家出身の参加者で、何かと話が分かり色々体験してもらった。
- 泊) 時間が短かったので、予定していた体験が出来ませんでした。

参加者の感想

- 参) 落ち葉集めや大根抜きは、普段できないので子どもも夢中でした。堆肥ってこうやって作るんだと初めて知りました。動物が家にいると、子どもはさらに喜びますね。
- 参) 炭焼き、今度お父さんに教えてもらいたいです。
- 参) なつかしかったです。
- 参) 犬の散歩、牛のエサやり、ユズの収穫、倉や画廊探索と、子どもは本当に喜んでいました。
- 参) 今の季節を楽しめるような体験を考えてくださって楽しかった。

民泊受け入れを通して

民泊受け入れ者の感想

- 泊) 寒い時期であるので、風邪をひいてもらわないように一番気を使いました。
- 泊) この時期は農家民泊には少し時期がずれているかもしれない。田植えや稲刈りの時期が良いのかも。または畑の野菜が育つ頃など。種まきや草取りの頃でも良い。
- 泊) 家族で協力して、無事に終わることができ、良かったと思っています。素敵な出会いに感謝いたします。
- 泊) 自分の家には柿やユズが無かったので、近所に分けてもらい、お土産にしました。これからは近所に協力してもらうことも大切だと思いました。

しめかざり（または、クリスマスリース）を作ろう



岡尾のおじいちゃん(石原町の大工さん)に、しめかざりの作り方を教えていただきました。
この日は、あまり時間がなかったので、わらをなう作業は地元のおじいちゃんたちをお願いして、あらかじめ用意しましたが、わらないに挑戦してみる参加者もいました。
昨日、山で採ったものを使って作りました。



参) 作った経験が無かったので良かったです。身近なもので温かみを感じられるものができて良かった。これからも作ってみたい。
参) 材料が残っていなかったり、用意していただいていたリボンが無くなっていたりしたのが残念でした。
参) しめ飾りの先生ともっと話してみたいかった。
参) リボン、リンゴ、ベルの飾りなども置いてあって良かった。
参) 自分は見つけられなかったものが置いてあり、使わせてもらい、嬉しかった。

参) しめ飾りの先生が本当に私の亡くなったおじいちゃんそっくりで涙が出そうになりました。おじいちゃんもこんなしゃべり方で、こんな上手にしめ縄を作っていたなあと。ジーンとききました。

モニターからの報告

(バーベキューのとき)

- シカのなきごえを初めて聞いた
- 家族としてのもてなしを受けて嬉しかった。
- ワニの刺身を初めて食べた。
- アイガモや犬のエサやりが楽しかった。
- 夜、民泊先のお父さんと一発芸を合せて楽しかった。
- 近所の人が持ち寄った漬物や手料理が美味しく、懐かしかった。
- 離れを改装されていて、珍しかった。
- まず仏壇にお参りすることから体験して懐かしかった。
- 新鮮な野菜で、準備中の野菜を子どもがつまみぐいするほどだった。
- 掘りごたつ・井戸水・薪で沸かす風呂、家の中に自然がいっぱいあった。
- 人とのつながりがたくさんあって、実家よりもくつろぐことができた。
- 近所を散歩した。ホテルがある川や紅葉のじゅうたんがきれいだった。
- コタツ自体が楽しかった。
- 懐かしく、ほっとできた。気分的にくつろげた。
- ウォーターランドを見に行った。夏に来たいと思った。

バーベキュー & モニターからの報告



地区内にある、平田観光農園でバーベキューをしながら、モニター参加された方々と、受け入れ家庭が民泊した家ごとに、体験したことや、感想の発表をしました。



参加者の感想

私にとって民泊の魅力とは、地のものをその土地で食べたり、そこに住む人たちの生活を垣間見たりすることにあります。そして、娘にそのような空間や時間の流れの中で何かを感じたり、発見したり、実際にやってみてほしいと思っています。

民泊で印象的だったのが、料理・森田さんご夫婦とその友人との関係・里山の環境です。

川西地区のアイガモ農法で育ったカモ料理をいただきました。トウモロコシは夏に収穫しゆで冷凍保存した物を、薪ストーブで焼いてくださいました。

森田さんご夫婦とそこご友人と一緒に料理をしたり、話をしたり一発芸をしたりととても楽しい時間を過ごしました。

家の近くで鹿が出るとのことで、夜、家の周りを歩きました。鹿はいなかったものの、野生動物の好きな娘はドキドキしている様子でした。

町に住んでいると、家の周りに自然はなく、食べ

るものはすべてお店で買い、皆忙しく友人と楽しい時間を過ごす事もほとんどありません。ですから、町に住むメリットを生かしながらも、川西の様な場所に足を運び今一度、心を止めて考えたり、ホッとする時間を作って行きたいと思います。

また、「まめな川西いつわの里づくり委員会」さまが開催した事はとても意味のある事だと思いません。

親戚でも友人でもない私達が農家の家を訪ねていく事はできません。この様な企画が入口となり、町と田舎の交流が進み、町の人には癒され、田舎に住む人は自分の住む町を見直す良い機会になる事を願っています。

福永会長をはじめ、森田さんご夫婦、ご友人、いろいろと準備をしてくださったスタッフの皆さま本当に有難うございました。とても楽しかったです。

モニター自由記入

●企画されている方々や地域の方々がとても仲が良いことが分かり、参加するほうも楽しく過ごせた。

●自然の中に身を置くことが一番リラックスできるので、こんな風に外の人達を迎え入れる場所や人があるのがとても嬉しいです。

●いつもは子どもと山のがっこうに参加するけれど、そこを一歩出て地域を見たり、地域の人たちに出会え、知ることができてとても楽しかったです。

●川西は自然・人・社会のつながりが豊かで素敵な

場所。また訪れたいし、ママ友も興味津々でした。外国の人にも来たがるでしょう。

●広島のイクちゃんネットに案内を出せば、多くの子育て世代が関心を持ってくれると思います。

●食料自給率が40パーセントを切る時代、農家の方には頑張っていたきたいと思った。

●山のがっこうまでの表示をもっと手前から大きくしてあったら良いと思います。

三次市農家民宿開業支援事業補助金

～平成27年3月31日まで

地域産業の振興を図るため、農林水畜産業者等が農家民宿を開業するために必要な経費の一部を助成します。

補助対象者

納期限の到来した市税を完納している方で、次の各号のいずれかに該当する方、またはそれらの2以上が組織する団体

- (1)市内に居住し、市内で農林水畜産業のいずれかを営んでいる方
 - (2)特定非営利活動促進法の規定により設立の認証を受けたNPO法人
- ※国、県、財団等から同一事業に対する助成を受けている場合は対象外

補助対象事業

農家民宿を営むために行う、補助対象者が市内に所有する家屋等の改修で、旅館業法に規定する旅館業の営業許可および食品衛生法に規定する飲食店の営業許可取得に必要な家屋等の改修

※本補助金における「農家民宿」とは、農林水畜産業者等が旅館業法に規定する旅館業の営業許可を取得する宿泊施設をいいます。

補助対象経費

- ・家屋等の改修費
 - ・旅館業および飲食店の営業許可取得に必要な施設整備費
- ※消費税および地方消費税相当額を除く。

補助率

補助対象経費の2分の1以内

※算出した額に千円未満の端数があるときは切り捨て。

補助上限額

- ・旅館業および飲食店の営業許可を受けて開業する場合：100万円
- ・旅館業の営業許可のみを受けて開業する場合：50万円

補助金交付の条件

開業後、農家民宿を1年以上継続して実施すること

家屋等の改修を行う施工業者は、市内に本店を有する建築関連業者(個人を含む)であること

申請方法

次の書類を商工振興課へ提出してください。

1. 交付申請書(事業計画書、収支予算書含む)
2. 工事見積書の写し及び施工前の現況写真
3. 改修平面図および断面図
4. その他、市長が必要と認める書類

お問い合わせ(三次市役所)
部署名: 産業部 商工振興課
産業経済活性化プロジェクトチーム
電話番号: 0824-62-6171
FAX番号: 0824-64-0172

川西でのいなかツーリズム

下記は、秋の民泊体験の受け入れ家庭が集まって、安心院町(大分県)グリーンツーリズム研究会の「農泊の手引き」をお手本にしながら、今回の民泊受け入れについて考えた会議の記録です。

受け入れ後の反省では、食事内容や体験について、「これでよいのか」と不安に思いながら受け入れたという声が多くあがりました。いなかツーリズムでよろこばれる料理研究や、体験指導の役割分担などを話し合い、より楽しい交流体験がすすめられるよう、「川西いなかツーリズム研究会」の立ち上げが期待されています。

●受け入れ費用

1泊2食で、
おとな6500円 / 幼児4500円
内訳)

食材費	2000円	(幼児1000円)
夕食	1500円	(幼児700円)
朝食	500円	(幼児300円)
布団代	2000円	:レンタル費(幼児も)
体験受入	2500円	(幼児1500円)

●スケジュール

1日目

到着前に、近くの温泉施設でお風呂を済ませていただく

17時頃 チェックイン・お互いに自己紹介
部屋(寝室・トイレ・食堂・洗面所)の案内
畑で食材収穫・散歩など

18時頃 いっしょに夕食の準備

19時頃 夕食・家族で団らん
翌日の希望(朝食時間・体験)を聞く

22時半 就寝(寝室で、お茶が自由に飲めるようにするといい)

2日目

霧の海を見たり、散歩をしたり・・・
朝食

10時 チェックアウト
希望があれば体験
(体験は他の家に頼んでもいい)

●食事内容

特別なごちそう料理でなく、川西地域でとれたものの自給率70パーセントを目標にした旬を感じる献立にする。

●布団

レンタルを活用したりして、なるべく無理なく継続できる方法で行う。

●お風呂

できるだけ、到着前に、近くの温泉施設などでお風呂を済ませていただくようにお伝えする。

●心構え

- ・親戚を迎えるような気持ちで、普段着でお迎えする。
- ・家族で役割分担をし、また、近所の親しい方にも受入れ対応メンバーに加わっていただいたりするなどし、継続できる方法を考えながら行う。
- ・共同調理を行う。(料理を提供するには、食品衛生法上の許可申請が必要)

●その他

- ・夕食後の団らんは、22時半を目処にすることを、前もってお伝えする。
- ・夕食時のお酒について、乾杯の一杯は献立に加えておき、それ以上飲まれる場合は、実費をいただくようにする。
- ・「農家民泊の手引き」を民泊に来られる方に見える場所に置いておくと、お伝えしやすい。
- ・寝巻きや歯ブラシなどは持参していただく。



川西の郷に、よう来てくれました。
ふるさとに帰って来たような気持ちで過ごしてもらえりゃあ、うれしいよ。
わからんことがあったら、遠慮なく、聞いてえよ。

-----農家民泊の手引き(案)-----

1. 農家民泊の最大の魅力は、交流と団らんです。

【農家民泊での過ごし方】

- ・食事は、お料理などを一緒にしていただくことになっています。
- ・夜の団らは22:30までを目安にしてください。
- ・貴重品は各自で管理してください。
- ・ねまき・洗面具はご持参ください。

2. 宿泊料金に関して

一泊2食(夕食・朝食)付きで大人6,500円(小学生～)、幼児4,500円(3歳以上)を各家庭にてご到着時にお支払いください。

3. 別途料金について

- ・酒代は別途料金がかかります。お持込みは大歓迎です。
- ・3歳未満のお子様はお布団・お食事がありません。

4. 体験料金について

体験を希望される場合は一人1体験(1～2時間)1,000円+材料費実費としています。

季節や農家ごとに体験内容が異なりますので、詳しくはお問い合わせください。

※体験料は、大人も子どもも同じです。

体験例) 田植え・稲刈り体験/そば打ち体験/山歩き体験/絵手紙体験 他

5. チェックイン・チェックアウト時間について

農家民泊の受入時間は、夕方5時～翌朝10時を原則としています。



6. 入浴について

各農家の家庭と同じ風呂にご入浴いただけますが、近隣の温泉施設を紹介します。

入浴料(500～600円)、タオルなどをご持参ください。

<川西自治会館からの距離>

- ・君田温泉森の泉0824-53-7021 <27キロ>
- ・かんぼの郷庄原 0824-73-1800 <25キロ>
- ・せら香遊温泉0847-22-5280 <20キロ>

農家民宿

開業のご案内

ダイジェスト 版

みよし田舎ツーリズム協議会

事務局:三次市観光交流課定住交流係

農家民宿(農林漁業体験民宿業)とは 農山漁村滞在型余暇活動のための基盤整備の促進に関する法律(通称「余暇法」「農村休暇法」「グリーン・ツーリズム法」)によると…

主として都市の住民に対して農林漁業に関する作業体験、農林水産物の加工又は調理体験、農山漁村の生活及び文化に触れる体験やその知識を与えるサービス等(農村滞在型余暇活動)を提供できる宿泊施設

農家民宿って?

農山漁村の魅力丸ごと体験できる農家民宿。

農家民宿は一般の民宿とは異なります。農林漁業を営んでいるごく普通の家庭に、お客様が泊まっていただくもので、法的には「簡易宿所」として広島県より認可されています。

お客様には三次市の豊かな自然や美しい景観、郷土の食や文化や生業を地元住民とのふれ合いを通じて提供していければと思います。

体験・宿泊料は副収入となりますし、都市住民との交流を通して、地元への新たな魅力に気づかれるかもしれません。

東日本大震災以降、都市住民の農山漁村への関心は急速に高まっており、農家民宿は特に注目を集めています。

開業に向けて全力サポートいたします

「農家民宿が良いのは分かっているけど、開業の自信がない…」「開業の手続きが面倒臭そう…」という不安を持たれる方は当然いらっしゃると思われます。

そこで、みよし田舎ツーリズム協議会が全力サポートいたします。

開業に向けての悩み相談・事務手続きの代行、などをさせていただきます。

どうすれば開業できるの？

①まずはしっかりと家族の同意を得ましょう。

ご家族の協力無しでは農家民宿は成り立ちません。ご家族で農家民宿体験をしてみたり、実践者のお話を聞いてみたりするのもよいでしょう。

事務局でも農家民宿の視察を行っていますので、ご遠慮なくお問い合わせください。

②営業許可申請から許可までの手続き

農家民宿を開業するためには、三次市や消防署、広島県などに申請書類を提出して、許可を得る必要があります。また、提出した申請書類に基づいて現地審査や改善指導があります。

申請書類の作成や現地審査については、事務局が全面的にお手伝いします。

農家民宿・一問一答

問1「お客さんは何名ぐらい受け入れないといけないの？」

答1「受け入れに無理のない範囲に指定できます。目安は1～5名。」

問2「農繁期も受け入れないといけないの？」

答2「受け入れなくても構いません。受け入れられる期間だけで大丈夫です。」

問3「開業までお金はいくらぐらいかかるの？」

答3「開業認可申請料、防災対策等で最低でも3万円はかかります。」

問4「ウチは農家じゃないから無理？」

答4「開業できます。そのかわり客室を33㎡以上にする必要があります。」

問5「お客さんは何泊ぐらいするの？」

答5「受け入れ側の判断で何泊でも可能です。目安は1～2泊でしょう。」

問6「お客さんを選べることはできるの？」

答6「できません。しかし、宣伝で絞り込みをすることは可能です。」

問7「家庭の事情等で閉業せざるを得なくなった場合はどうすれば？」

答7「閉業の手続き等も事務局がお手伝いさせていただきます。」

問8「家がすごく古いからお客さんは嫌がるかな？」

答8「そんなことはありません。古いものに価値を見出す人は増えています。」

問9「開業しないとお客さんを受け入れられないの？」

問9「受け入れ可能ですが、宿泊料をいただくことはできません。開業せずに受け入れをする場合でも、防災・衛生面では農家民宿と同じ水準にすることを強く推奨します。」

※詳しくは協議会まで

～ 問合せ～

みよし田舎ツーリズム協議会

事務局：三次市観光交流課定住交流課

〒728-8501 三次市十日市中二丁目8番1号

電話：0824-62-6129 Fax：0824-62-6137

開業案内作成：三次市地域おこし協力隊 野口拓郎

農家民泊モニター募集

秋のいなかに 酒まろう



川西いなかツーリズムモニターツアー

農家で1泊2日の体験

広島・三次市の南端(旧川西村)

いなか暮らしが楽しい里

まめな川西
いつわの里



うちん家に遊びに 来てみんなちやい。

私たちの地域では「いなかの自然・生活文化等々の継続発展とグリーン・ツーリズムの推進をめざし農家民泊の受け入れをしたいと考えています。

そこで、農村での1泊2日の体験に参加していただくモニターを募集することになりました。



●実施日 / 平成24年 **11月23日^祝 ▶ 24日^土**

●募集 / 2~5人のグループ(家族可) 合計20名程度
申し込み締切10月31日必着 ※fax・mail・郵送にて

●参加費 / おひとり5,000円(幼児3,500円)

参加者はモニターとしての体験レポート提出にご協力ください。

●集合 / 13:00 ほしはら山のがっこう 広島県三次市上田町388旧上田小

●解散 / 14:00 同上

主催:まめな川西いつわの里づくり委員会(主管:川西自治連合会)

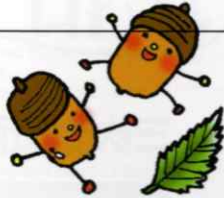
川西自治会館 〒728-0621 広島県三次市三若町2551-1 TEL FAX (0824)69-2526

協賛:NPO法人ほしはら山のがっこう・平田観光農園

後援:三次市

秋のいなかに泊まろうー1泊2日のプログラム

1日目
11月23日(祝)

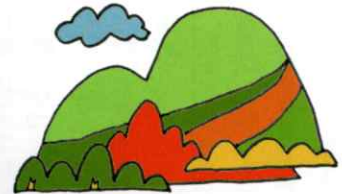
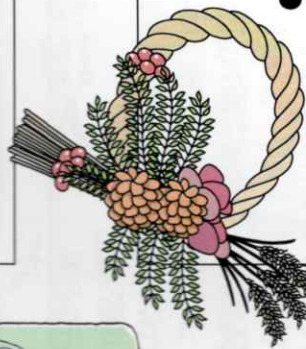


- 11時半～13時 集合
- 13時～ 開会式
- 秋の野をさんぽ(しめかざり・クリスマスリースの材料さがし)
- 民泊先の方との対面式
- 民泊先にて交流(夕食・宿泊)

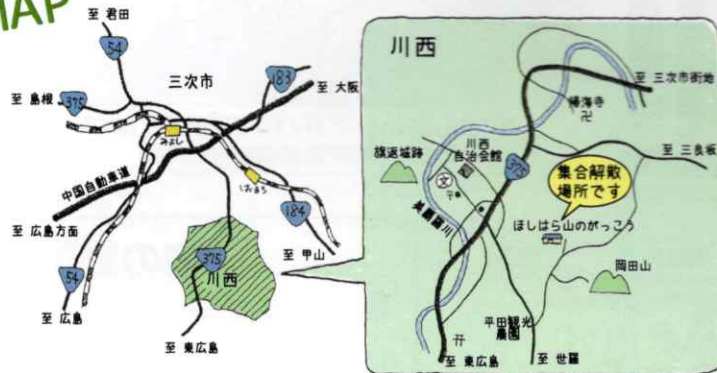
※昼食は集合時間までにお済ませください。集合場所は11時半頃から使えますのでお弁当を持参することもできます。

2日目
11月24日(土)

- 民泊先で朝食
- 民泊先での体験
- 農村クラフト(しめかざり・クリスマスリースづくり)
- みんなでバーベキュー
- 閉会式
- 14時 解散



MAP



- 集合場所へは自家用車でお越しください。駐車スペースは十分にあります。
- 送迎をご希望の方は、参加申込みの際にお伝えください。(三次駅からの公共交通機関がありません。)

まめな川西いつわの里
川西自治会館

〒728-0621 広島県三次市三若町 2551-1 Tel.Fax 0824-69-2526



NPO法人
ほしはら
山のかっこ

〒728-0624 広島県三次市上田町 388 旧上田小 Tel.Fax 0824-69-2888



【参加申込み書】 (FAX.0824-69-2526 mail.kawanishi@m-city.jp)

締め切りは、10月31日(水)必着です。申し込み多数の場合は、当委員会にて動機などを元に審査し、モニター参加決定についてグループ代表者に11月5日までに連絡いたします。

代表者

氏名 _____ 年齢 () _____
住所 〒 _____
_____ 電話番号 _____

友人・家族

氏名 _____ 年齢 () _____
氏名 _____ 年齢 () _____
氏名 _____ 年齢 () _____
氏名 _____ 年齢 () _____

参加動機

個人情報については、本事業においてのみ使用させていただきます。

乗斤

馬野

第3

2012 11/25 中国

田舎暮らし 民泊で実感

三次の川西地区で試行



上野さん②からアドバイスを受けながら脱穀作業を体験する金高さん夫妻

7世帯が受け入れ 広島や呉から19人

田舎暮らしの魅力を実感して地域に人を呼び込もうと、三次市川西地区の7世帯が、23日から1泊2日の農家民泊を試行した。宿泊者の感想を踏まえ、農家民泊・民泊に本格的に取り組みかどうか検討する。
(馬上稔子)

7世帯が受け入れたのは、広島市西区の会社のは広島市や呉市の計 農家高智さん(37)夫妻19人。三若町の農家上野さんが宿泊した。上野さん(82)宅には、回転式の農具足

踏み千歯」での稲の脱穀など、昔ながらの道具を使った農作業を手ほどきした。「農作業は思っていた以上に楽しかった。トラックスでできるひとときだった」と金高さん。上野さんは「いやなかで、民泊の良さを実感できた」と話して

いた。別の6世帯では、宿泊者に野菜の収穫や牛の世話などを体験してもらった。川西地区は、豊かな自然を生かしたグリーンツーリズムを推進している。今回は、地区の魅力を伝えることもに、住民間に農家民泊を定着させる目的で川西自治連合会が企画した。

参加の動機

- 両方の祖父母とも広島市内在住の為、なかなか自然にふれあう機会が少ない為、出来るだけ幼い時から自然に関わる行事には参加してきましたが、農家民泊はまだ経験した事がなく、本人たちも参加したい!との事だったので。
- 農家民泊は、旅館やホテルよりもお安く、しかも子どももいろんな体験と人との交流があり、広島でもどこかできる場所がないかな、と注目していました。そんな中で記事を拝見しました。
- 自然の中で生活をしたい。
- ほしはら山のがっこうで上田を知り、地元生活に興味があります。
- 都市と田舎のつながりを感じたい。第二のふるさとが欲しい。
- 民泊に関心があり、新聞を読んで行きたくなった。

乗斤

馬野

2012 11/29

中 田舎暮らし

赤く色ついた山々、澄んだ川、取れたてのアユの刺し身、ふぞろいだけれどおいしい自家製野菜。三次市に住み、都会にはない。10月には市内で自治組織などが

農村の魅力地域資源に

魅力を感じている。協賛会をつくった。「田舎体験」

そんな魅力を味わってもらおう取組が三次市内で進んできた。同市川西地区では住民が農家民泊ツアーを企画。広島市や呉市の19人が住民宅に泊まり、農作業や牛主要施策に掲げる市の積極的な支援も欠かせない。
(馬上稔子)

参加のみなさまへ

三次市では霧の海のシーズンを迎え、紅葉もはじまっています。みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

このたびは、「川西いなかツーリズム(農家民泊)モニターツアー」に参加申込みくださりありがとうございます。おかげさまで多数のお申込みがあり、また、あたたかな参加動機を寄せていただき、うれしく思っています。

農村暮らしならではの楽しみや文化・景観を、ずっと後世までつなげていきたい...との思いで、わたしたちは「田舎暮らしが楽しい里」づくりを目指した活動に取り組んでいます。

そのひとつとして、川西地区は「いなかツーリズム」に取り組んでいます。

田舎ぐらしの交流の中で、田舎・都市それぞれの暮らしの有り様を思い、お互いに幸せな気持ちになれるような時間を積み重ねることができたらいいなあ、と。そして、川西を第二のふるさとと感じてくださったらうれしいなあ、と。

農家民泊ツアー試行は二度目の取り組みです。平成21年に行われたモニターツアー「村まつりと民泊」で初めて、川西住民は「グリーンツーリズム」を体験することができました。

今年、待ちに待った農家民泊許可などの仕組みが三次市にも整備され、川西の「いなかツーリズム」を通じた地域づくりの機運が熟したように思います。そんな中で、今回のモデルツアーを実施することになりました。

今回のお泊り先となる農家は、このモデルツアーを通して「農家民泊」申請を具体的に考えていくこととなります。ドキドキしながらお迎えします。ほとんどの農家が、初めての受入体験です。なにかと行き届かない点、ご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、みなさんとの出会いの日を楽しみにしております。

朝夕の温度差が日ごとに変化してきています。どうぞご自愛ください。そして当日、元気に会いできますように。

まめな川西いつわの里づくり委員会一同

■もちもの

- ・洗面用具一式(タオル・歯ブラシなど)
- ・お風呂用具一式(リスタオル・タオルなど)
- ・バジャマ
- ・防寒着(朝夕はとっても冷え込みます)
- ・箸替え
- ・軍手
- ・保険証

※薬類が必要な方はご持参ください

- ・農家での交流のときに飲みたい飲み物(乾杯の一杯は準備しています)

・その他、個人の持物

・参加費(5000円・幼児3500円)

■服装

- ・活動しやすい服がよい
- ズボン着・はきなれた運動靴・帽子

ほしはら山のがっこうのお風呂施設にあるもの

- ドライヤー
- 洗面器
- お風呂の石鹸類(好みのものがあれば持参ください)

■注意事項(あらかじめ、ご承知おきください)

※イベントにおいて発生した事故などに関しましては、主催者加入による傷害保険の範囲内の補償となります。
※イベント開催中の映像、写真、記録等は、テレビ、新聞、雑誌、インターネット等へ掲載される場合があります。

当日のスケジュール

*時間・スケジュールは、変更する場合があります。

時間	場所	内容
11:30~	ほしはら山のがっこう	開場 <small>昼食は昼食までにお済ませください。お弁当を持参し、教室でお召し上がりいただくこともできます。</small>
12:30~	ほしはら山のがっこう	受付開始
13:00		開会式・オリエンテーション 【体験1】秋の野をさんぽ <small>2日目の体験で使う農家を田舎の運木のりり歩きながらあつめましょう。</small>
15:00	風呂(施設の風呂・男女入替り)	プロフィールカードづくり
16:30	民泊先の方と対面式	移動(車で) <small>移動の車は、マイカーでも、民泊先の方の車に乗ってもどちらでも構いません。</small>
17:00	受入農家 -泊-	農家民泊体験 <small>別室~お泊り先農家の家裏と対面 お泊りのお部屋などをご案内 いっしょに夕食づくり(共同調理です) おしゃべり(22:30までに就寝) 交流をおたのしみください。</small>

時間	場所	内容
10:00~	ほしはら山のがっこう	掃除 ※受入農家の方と一緒に昼食までごします
10:00~		【体験2】季節の農村クラフト <クリスマス~お正月リース>
12:00	平田朝光農園	移動(車で) 昼食(バーベキュー) 農家民泊体験の報告・交流会
13:30		閉会式
14:00		解散 解散後、ほしはら山のがっこうに荷物を取りに帰ることもできます。

11月14日までに、お返事をおねがいします。

①三次駅もしくは、三次バスセンターへの送迎について

送迎を希望する(人数 名) / 自家用車で行く

チェック 往路 JRを利用する 高速バスを利用する
復路 JRを利用する 高速バスを利用する

乗車	広島駅10:00発 → JRみよしライナー(快速) → 三次駅着11:22
	広島バスセンター10:20発 → 東城行き高速バス → 三次バスセンター着11:45
乗車	三次駅16:02発 → JRみよしライナー(快速) → 広島駅着17:28
	三次バスセンター15:30発 → 広島駅行き高速バス → 広島バスセンター着16:47
	広島駅着16:57

*送迎を希望の方は、お弁当をご持参ください。

②アレルギーの有無について

家で犬猫や牛を飼っているところもあるので、動物アレルギーについてや、食物アレルギーについてお聞かせください。

アレルギーが ある / ない

アレルギーがある方

※出席者名・詳細を記入

③その他、質問など

氏名	生年月日	〒 住所	緊急連絡先

保険加入の都合上、ご記入いただけますようお願いいたします。

返信先: TEL/FAX 0824-69-2526 川西自治会館
MAIL kawanishi@m-city.jp 「秋のいなかに泊まるう」事務局まで



が来たら、農家民宿の許可申請する」などの感想が寄せられました。また、来訪者からは、「こたつや障子が良かった」「どんな農家の人かと不安とワクワク

だったけど、ふれあいですぐ安心、あつという間だった」「田舎育ちの者にとって、母の手料理はもう食べられないので、懐かしく、うれしく、感謝いっぱい」「お

じいちゃんはこのなにしてしめ飾りを作っていたのかと、昔の我が家を思い出してジーンとなった」など感激と感謝の声が寄せられました。



今回の経験は、農家民宿はやってみて経験することが大切、一定の受け入れ態勢を整え、募集すれば人々は来る、ふる

さと田舎性は宝だということです。

川西には、既に農家民宿許可を受けておられるのは、上田町「民宿ポンママの宿かくれんぼ」さんと、海渡町「農家民宿竹丸屋」さんの2軒あります(ほかに申請準備中1軒)。市内ではみよし田舎ツーリズム協議会の取り組みにより順次増加しています。

前にも述べましたが、今後、川西のグリーンツーリズム、農泊体験などの都市農村交流は、NPO法人「ほしはら山のがっこう」の諸活動と連携し、地域全体で魅力アップに努めながら進めていく予定です。

「自然の中に身を置くことが一番リラックスできるので、こんな風に外の人たちを迎え入れる場所や人があるのがとてもうれしいです」の感想にあるとおり、農泊以外にも、地域の生活文化や歴史、技術、産業、自然環境など



様々な分野の資産の出番です。

「できる機会に、できることで、広範な皆様のご参加とご支援をよろしくお願いします。」



当日は、この民泊とともに、ほしはら山のがっこうでの農村クラフトや平田観光農園体験・バーベキューも組み入れています。来訪者の方との出会いがありましたら、温かいお付き合いをよろしくお願いたします。

今後、川西のグリーンツーリズム、農泊体験などの都市農村交流は、NPO法人「ほしはら山のがっこう」の諸活動と連携し、地域全体で魅力アップに努めながら進めていく予定です。

農泊以外にも、地域の生活文化や歴史、技術、産業、自然環境など様々な分野の資産の出番です。できる機会に、できることで、広範な皆様のご参加とご支援をよろしくお願いたします。

p.3



内全町7軒の方に受け入れ体験してもらい、広島など都市の方、8家族19名の方（泊なしの方2名を加えると21名）から参加がありました。

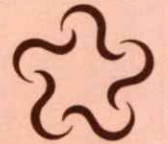
迎え入れる場所と人があるのがとてもうれしいです（来訪者）

11月23日と24日、まめな川西いっわの里づくり委員会主催で、地域の農民宿育成を目的に、「田舎に泊まろう」をキャッチフレーズに農家での1泊2日の体験ツアーを行いました。

この事業は、これから農家民泊・ホームステイ・ホームビジットなどを、時にはやってみようかなと思われる方の体験版です。10軒の方から希望していただきましたが、来訪者の関係上、地区

田舎の魅力はさまざまにある

田舎に泊まろう農家民泊ツアー



広報川西

第81号
2013.1.10

発行
川西自治会館
川西自治連合会

23日には、13時からほしはら山のがっこうで開会式の後秋の野を散歩しつつしめ飾りとクリスマスツリーの材料探し、入浴、民泊先での対面式を行い、民泊先へ、

24日は民泊先での農家農村の体験（落ち葉拾いとたい肥作り、大根、

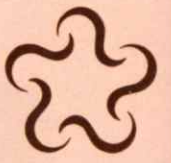


ゆずの収穫と朝食づくり、農家自慢の庭見学散歩、など多様）、ほしはら屋mの学校へ集合し農村クラフト、平田観光農園でみんなでバーベキュー。感想を述べ合い閉会式の後解散となりました。

やってみると出会いが楽しい

民泊受け入れ

受け入れられた農家は、「初めは緊張したが、やってみると人との出会いが楽しい」「年1, 2回はあってよい」「上水道



広報川西

第78号
発行
川西自治会館
川西自治連合会
TEL 69-2526
2012.11.10

田舎暮らしの来訪者 田舎に泊るって農家民泊ツアー

11月23、24日に開催

3年前に有原町でおこなわれた民泊ツアー「村まつりと民泊」。都会の若い女性を呼び込んだこのツアーは、大変な盛況でありました。

先月号の折り返し込みでお知らせしました通り、この体験を基に、まめな川西いつもの里づくり委員会主催で、今度は地域の農家民宿育成を目的に、「田舎に泊まる」をキャッチフレーズに川西全体で開催することになりました。

20名を定員に広島など都市の方にモニターを募集しましたところ、早速21名8家族の方から応募がありました。

7軒の方が民泊受け入れを体験

川西には、既

に農家民宿許可を受けておられるのは、上田町「民宿ポムマの宿」かくれんぼさんと海渡町「農家民



宿「竹丸屋」さんの2軒あります。

今回の事業は、これから農家民泊・ホームステイ・ホームビジットなどを、時にはやってみようかなと思われている方の体験版です。10軒の方から希望していたいただきましたが、来訪者の関係上、地区内全町7軒の方に受け入れ体験してもらうことになり、11月6日、受け入れ農家会議をもち、各農家への参加者の割り当て、実施要領、日程確認、民泊の手引きづくりなどが行われました。

来訪者の方への受諾通知を、次のように送っています。今回の事業趣旨が分かりやすいと思いますので、全文を紹介いたします。

「参加者のみなさまへ」

三次市では霧の海のシーズンを迎え、紅葉もはじまっています。みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

このたびは、「川西いなかツアーリズム(農家民宿モニターツアー)」に参加申込みくださり有難うございます。おかげさまで多数のお申込みがあり、また、あたたかな参加動機を寄せていただき、うれしく思っています。

農村暮らしならではの楽しみや文化・景観を、ずっと後世までつなげてゆきたい...との思いで、わ

たしたちは「田舎暮らしが楽しい里づくり」を目指した活動に取り組んでいます。

そのひとつとして、川西地区は「いなかツアーリズム」に取り組んでいます。

田舎暮らしの交流の中で、田舎・都市それぞれが暮らしている様子を思い、お互いに幸せな気持ちになれるような時間を積み重ねることができたらいいなあ、と。そして、川西を第2のふるさとと感じてくださったらうれしいなあ、と。

農家民宿ツアー試行は実は2度目の取り組みです。平成21年に行われたモニターツアー「村まつりと民泊」で初めて、川西住民は「グリーンツアーリズム」を体験することができました。今年、待ちに待った農家民宿許可などの仕組みが三次市にも整備され、川西の「いなかツアーリズム」を通じた地域づくりの機運が熟したように思います。そんな中で、今回のモニターツアーを実施することになりました。

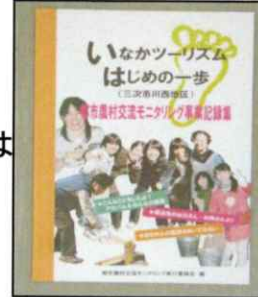
今回のお泊り先となる農家は、このモニターツアーを通して「農家民宿開業」申請を具体的に考えていくこととなります。ドキドキしながらお迎えします。ほとんどの農家が、初めての受け入れ体験です。

なにかと行き届かない点、ご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、みなさんとの出会いの日を楽しみにしております。朝夕の温度差が日ごとにきびしくなってきました。どうぞご自愛ください。そして当日、元氣にお会いできますように。

まめな川西いつもの里づくり委員会一同

☆民泊ツアーの受け入れ先を募集します☆

3年前に有原町でおこなわれた民泊ツアー。
 都会の若い女性を呼び込んだこのツアーは、大変な盛況でありました。
 今回は、民泊農家育成を目的に、川西全体で開催します。
 ツアー参加者には秋の田舎を五感で楽しんでもらい、川西
 を好きになっていただけたらと考えています。
 あわせて農家民泊・ホームステイ・ビジットなどを、時には
 やってみようかなと思われている方の体験版です。



開催日：11月23日（土）～24日（日）

参加対象者：若い女性を中心とした田舎に関心あるグループ（若い家族含む）

参加人数：20名程度（1グループ2～5名）

主催：まめな川西いつわの里づくり委員会、川西自治連合会

主なスケジュール（予定）

【11月23日（1日目）】

- 13:30 ほしはら山のがっこう（旧上田小学校）集合、オリエンテーション
- 14:00 山歩き（しめ縄・クリスマスリースの材料さがし）
- 15:00 入浴（ほしはら山のがっこう内の入浴施設を使用）
- 16:20 民泊先との対面式、その後民泊先へ移動
- 16:30 **家の案内、周辺の散歩**
- 18:00 **夕食（手間がかからない鍋物がおすすめ）**

【11月24日（2日目）】

- ～10:30 **起床、朝食および各民泊先でのオリジナル体験メニュー**
- 10:40 ほしはら山のがっこう集合、しめ縄・リース作り
- 12:30 昼食（パーベキュー）
- 14:00 解散式

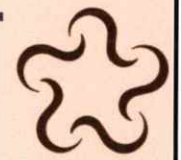
民泊受け入れ先による参加者への対応は、主に上記の**太字部分**になります。
 起床・朝食の時間は各受け入れ先にお任せします。
 オリジナル体験メニューは田舎を感じられるものであれば何でも構いません。例
 としては、岡田山から雲海を見る、野菜の収穫をする…など。

受け入れ先の募集締め切り：9月20日

応募先：川西自治連合会 TEL 69-2526 (FAX 兼用)

お知らせ

今回応募し、「農家体験民泊をやってみようかな」と考えられている彼方へ！
 10月7日（日）に民泊の先進地研修を予定しています。ご都合がよろしい方は
 お気軽にご参加ください。研修の詳細につきましては後日お伝えします。



広報
川
西

第76号
発行
川西自治会館
川西自治連合会
TEL 69-2526
2012.9.10